

第61回視覚探索研究会夏期合宿プログラム

日程：7月27日（金）～29日（日）

場所：RESORT HOUSE クラーレット

長野県南安曇郡穂高町牧 2354-1

0263-83-5515

交通：<電車>JR 中央線，大糸線

新宿～穂高 特急あずさ 3時間

名古屋～穂高 特急しなの 2時間45分

<自動車>長野自動車道 豊科 I.C. から 15分

費用：2万円～2万5千円程度

(2泊，夕食×2，朝食×2，会議室，テニスコート)

予定：	27日	28日	29日
8:00		朝食	朝食
9:00		研究会	研究会
12:00		昼食	解散
13:00	テニス	テニス	
15:30	研究会		
18:30	夕食	夕食	
20:00	研究会	研究会	

発表時間は，発表内容・希望により，2パターンあります．名前の前の記号で区別しますので，ご確認ください．

◇ 20分（発表15分，質疑5分）

◆ 60分（発表45分，質疑15分）

発表に際しては，液晶プロジェクター+PCが使用できます．Macintoshを用意いたします．その際の PowerPoint などのファイルは MO でお持ちください．その場合は，前もってご連絡いただけますようお願いいたします．（どなたからでもご希望がない場合には，MO 装置は用意しません．）また，それ以外の方は，各自で PC をご持参ください．

なお，本年はビデオプレゼンターは用意いたしませんので，ご注意ください．発表資料を配付する方は，21部ご用意ください．

テニスは基本的に全員参加です．テニスができる用意（ウェア，シューズ，ラケット）をしてきて下さい．1日目（7/27）は13:00から練習用に1面コートをとっています．これは全員参加ではありませんが，練習をされない方も，研究会第一セッション（15:30）までには必ず到着されるようお願いいたします．

また29日の解散後，毎年恒例のプール・温泉に行きますので，行かれる方は水着の用意もお忘れなく

プログラム：

セッション 1

7/27 15:30～17:00

◆ 河原純一郎（広大）

「妨害刺激は無視できるか？

ー注意の瞬きを規定するもう 1 つの要因ー」

◇ 日比優子（東大）

Rubinstein, J., Meyer, D.E., & Evans, J.E. Executive control of cognitive processes in task switching.
JEP: HPP (in press)

セッション 2

7/27 20:00～24:00

◆ 熊田孝恒（産総研）

「視覚選択における前頭葉の機能ー Bichot & Schall らの研究のレビュー」

Bichot & Schall (1999). Effects of similarity and history on neural mechanisms of visual selection.
Nature Neuroscience 2(6), 549-554.

Bichot, Rao, & Schall (2001). Continuous processing in macaque frontal cortex during visual search.
Neuropsychologia, 39, 972-982. 他

◆ 伊丸岡俊秀（阪大・通総研）

「7th Annual Meeting: Human Brain Mapping@Brighton, UK (6/10-14)

attention セクションの紹介」

◇ 横澤一彦（東大）

「位置,特徴,オブジェクトへの注意に関わる脳活動」

◆ 実吉綾子（上智）

「視覚経路の解離と相互作用に関する研究の動向」

Creem, S.H. & Proffitt, D.R. (2001). Defining the cortical visual
systems: "What", "Where", and "How". Acta Psychologica, 107, 43-68.

Jackson, R.S & Shaw, A (2000). The Ponzo illusion affects grip-force but not grip-aperture scaling
during prehension movements. JEP:HPP, 26(1), 418-423.

Wraga, M., Creem, H.C., & Proffitt, D.R. (2000). Perception-Action DIssociations of a walkable
MULLER-LYER configuration. Psychological Science, 11(3), 239-243.

Creem, S.H. & Proffitt, D.R. (2001). Grasping Object by Their Handles: A Necessary Interaction
Between Cognition and Action JEP:HPP, 27(1), 218-228. 他

◇ 林美恵子（早大）

Spence, C., Pavani, F., & Driver, J. (2000). Crossmodal links between vision and touch in covert endogenous spatial attention. *JEP:HPP*, 26, 1298-1319.

◇ 菅沼睦（東大）

McCarley & He (2001). Sequential priming of 3-D perceptual organization. *Perception & Psychophysics*, 63, 195-208.

セッション 3

7/28 9:00～12:20

◆ 河西哲子（産総研）

「3次元空間における視覚的注意の心理生理学的検討」

◆ 千葉保世（東大）

「巡回系列順序錯誤の生起要因」

◆ 永井淳一（東大）

「物体認知における表面色の役割に関するレビュー」

Tanaka, J.W. & Presnell, L.M. (1999). Color diagnosticity in object recognition. *Perception & Psychophysics*, 61, 1140-1153.

Tanaka, J., Weiskopf, D., & Williams, P. (2001). The role of color in high-level vision. *TRENDS in Cognitive Sciences*, 5, 211-215.

◇ 永田憲範（豊橋技科大）

「視覚探索における色情報符号化メカニズムの検討」

セッション 4

7/28 20:00～23:40

◆ 光松秀倫（東大）

「物体認知における内部輪郭の役割」

◇ 齋木潤（京大）

Blaser, Sperling, & Lu (1999). Measuring the amplification of attention. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA.*, 96, 11681-11686.

◆ 原澤賢充（東大）

「注意とトラッキングと運動知覚」

Culham, Verstraten, Ashida, and Cavanagh (2000). Independent Aftereffects of Attention and Motion. *Neuron*, 28, 607-615. 他

◇ 小川洋和（関学）

Scholl, B. J., Pylyshyn, Z. W., Franconeri, S. L. (submitted). The relationship between property-encoding and object-based attention: Evidence from multiple object tracking.

◆ 坂本佳陽（東大）

「オブジェクトと注意をめぐって」

Brian J. Scholl(2001). Objects and attention: the state of the art. *Cognition*, 80, 1-46.

セッション 5

7/29 9:00～11:00

◇ 武田裕司（産総研）

Horowitz, T. S., & Wolfe, J. M. (2001). Search for multiple targets: Remember the targets, forget the search. *Perception & Psychophysics*, 63, 272-285.

◆ 大谷智子（聖心）

「図形を随伴した視野闘争の時空間特性」

◇ 矢島彩子（富士通研究所）

「画面構造による「見やすさ」の検討」

◇ 川津茂生（国際武道大）

「存在科学に関する考察（仮題）」